「CPT−11+NDP 療法」について

この治療法は、子宮頚癌の代表的な治療法です。CPT−11 とはイリノテカン、NDP はネダプラチンの略称です。CPT−11＋NDP 療法はイリノテカン、ネダプラチンの2種類の抗がん剤が用いられます。

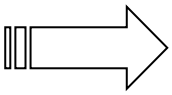
1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	1日目	8日目
デキサメタゾン＋ グラニセトロン	吐き気・アレルギー予防 吐き気予防	○（15分）	○（15分）
イリノテカン	抗がん剤	○（90分）	○（90分）
ネダプラチン	抗がん剤	○（120分）	―
フィジオ140	水分補給	○（60分）	―
フィジオ140	水分補給	○（60分）	―
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	―	○（約5分）

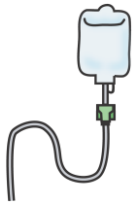
2. スケジュール

CPT−11＋NDP 療法療法は28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日と8日目に抗がん剤を投与すると残りの20日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル			
	1日目	2日目～7日目	8日目	9日目～28日目
投与日	○		○	
休薬日		○		○



3. 特徴



●<u>イリノテカン</u>

作用：がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項：点滴中に痛みや違和感があったらお知らせください。

併用する薬剤や食品（グレープフルーツなど）によってはイリノテカンの作用に影響を及ぼすものがあります。

現在服用している薬剤や健康食品などがありましたらお知らせください。

●<u>ネダプラチン</u>

作用：がん細胞の DNA と結合することで抗がん作用を示します。

注意事項：点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

まれにアレルギーを起こす場合があります。発疹、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、などの症状が出たらすぐにお知らせください。

水分の摂取を心がけてください（1日1．5L～2L くらい）。

3. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくても注意が必要な副作用（有害作用）について掲載しました。
（ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にしていただきたいと思います。）

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる（免疫反応）役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期：抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

対策：細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。手洗い、うがいを心がけましょう。
外出時はマスクを着用してください。
虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。
好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。

貧血

赤血球の成分が少なくなると貧血を起こすことがあります。自覚症状としては息切れ、動悸、手足の冷え、倦怠感、立ちくらみ、などが現れます。

好発時期：抗がん剤投与後7～14日後より徐々に症状が現れてきます。

対策：激しい運動は控え、無理のない範囲でゆっくり動くようにしてください。
鉄分が少なくなっているケースでは食事から摂取できるよう心がけてください。

血小板減少

血小板は出血を止める働きがあるため、少なくなると止まりにくくなり出血しやすくなります。

好発時期：抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。
症状としては、あざが出来やすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなった、などです。

対策：ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。
歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。

下痢

好発時期：【早期型の下痢】 投与中あるいは直後から翌日にかけておこる下痢で一過性であることが多い。
【遅発型の下痢】 投与後24時間以上たってからおこり数日間続く下痢。
投与を開始してから1週間以内に起こることが多く、1～2週間頃に症状のピークを迎えます。
ただし、初回投与から3週間は下痢の発現に注意してください。
まれに重症な下痢になった場合、腸管粘膜の防御機構が障害されて感染の危険性が出てきます。
症状が長く続く場合は脱水の原因にもなるため水分を多めに取るよう心がけてください。

対策：水分を多めに取って脱水が起きないように心がけてください。

予防的に漢方薬が処方になることがあります。

水分を取る場合、腸管内がアルカリになると粘膜の障害が減弱すると考えられるため、アルカリイオン水（1．5L～2L／日）を飲むのも有効であるとの報告もあります。

牛乳などの乳製品、コーヒー、アルコールは避けた方がよいでしょう。

下剤や腸管の運動を促進する薬（メトクロプラミドなど）はご相談ください。

頻回の水様便や発熱を伴う場合はご相談ください。

便秘

イリノテカンはその殆どが便中に排泄されます。つまり便秘になるとイリノテカンの排泄が遅くなり副作用（下痢や骨髄抑制）が起こりやすくなると考えられます。このため排便コントロールが大切になってきます。

好発時期：治療当日～数日間が起こりやすい時期です。

対策：水分を多めに摂取したり、食物繊維を取るように心がけてください。

便秘に対してお薬が処方になることがあります。症状にあわせて服用してください。

●代表的な便秘のお薬

酸化マグネシウム：水分を取り込んで便を柔らかくしたり、かさを増やしたりして排便しやすくします（緩下剤）。

センノシド：腸管の蠕動運動（便を送り出す運動）を亢進させて排便しやすくします（下剤）。

吐き気・嘔吐

好発時期：治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。

対策：抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

多くの場合、予防目的で抗がん剤治療前に吐き気止めの点滴を行います。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分（水、スポーツドリンク、など）はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

食欲不振・味覚障害

好発時期：点滴終了後から数日間で起きてくることがあります。

治療が終了すれば回復してきます。

嗜好の変化や味を感じなくなる（甘味、塩味、苦味など）ことがあります。

対策：食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。
口腔ケアによって味覚障害が予防できることがあります。清潔に保つよう心がけてください。
洗浄液をお使いの時は低刺激性のものをお使いください（水だけでも効果はあります）。

脱毛

好発時期：２～３週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後２～３ヶ月で回復し始めます。
対策：症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただけるとよいでしょう。
外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。
頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低い（１%程度）ですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。
対策：**初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。**

アレルギー

好発時期：点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。
自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでる、などです。
対策：異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう（漏出）ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れ、などがあり、場合によっては血管に沿って症状が出てくるときもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。
好発時期：点滴している間が最も多く、まれに帰宅数日後に症状が出てくることがあります。
対策：抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院